



「天皇皇后両陛下開催の宮中晩餐会における
フランソワ・オランド・フランス共和国大統領の挨拶の言葉

東京

2013年6月7日金曜日」

天皇陛下主催大統領歓迎晩餐会におけるスピーチ

天皇皇后両陛下、

ただいまいただきました陛下の暖かい歓迎のお言葉に感謝申し上げます。今夜の晩餐会にお招きいただきましたことはフランス全国民の光栄です。フランスの敬意と尊敬と友情を表して、ご挨拶いたします。

陛下のお招きをいただきまして初めての日本公式訪問をしております。目的は唯一、日本との結びつきをより一層強化したいというフランスの意志を確証するためです。

仏日両国の関係には卓越したものがあります。フランスの偉大な知識人、クロード・レヴィ・ストロースは次のように描写しました。「フランスと日本は広大な空間に隔てられ、大陸の両端に位置しているので、互いに背中を向けているように見えるかもしれない。しかし2つの国は同じ運命を共有しているのだ。」

両国は民主主義を大切にしており、そのことが私たちを結びつけています。アジアの最も古い議会である国会で、今朝、日本国民の代表の方々にそのメッセージを伝えました。仏日両国は共に、世界において、基本的人権、民族の自由の順守を掲げております。

仏日両国は平和に貢献しています。

フランスは、日本が国連安全理事会においてふさわしい地位を獲得すべく、日本を支援します。

フランスと日本は文化も共有しています。芸術、学術における交流は、155年前の外交関係樹立より以前に確立されてきました。

18世紀よりすでにフランスの職人たちは日本の物にインスピレーションを受けていました。日本文化の究極の洗練さはフランスの最も偉大な芸術家たちを感嘆させました。「ジャポニズム」はフランスで生まれ、

19世紀後半の欧州芸術に影響を与えました。ジャポニズムは印象派革命を起こしたきっかけのひとつです。ジベルニーのモネの家には、常陸宮殿下が2007年にご訪問されましたが、日本の美学への感動的とも言えるオマージュを捧げています。

日本文化に対する賛嘆の念はそれ以来ずっと続いています。フランス人の日本に対する関心の高さは今や国民の非常に広い層におよび、文学、料理、映画、舞台芸術、建築、格闘技など多岐にわたっています。

ポール・クローデルと渋沢栄一によって1924年に創立された日仏会館が来年、90周年を迎えます。それは文化の多様性を尊ぶ仏日両国共通の概念を強く確かめ合う機会になるでしょう。

歴史が進むにしたがって、仏日両国は特に経済やテクノロジーの分野において実り多いパートナーシップを発達させました。ゆえに、私は、政治、経済、文化、科学、教育など、あらゆる分野において協力を強化したいと思っています。

陛下、

二年前の福島の「悲劇」に際して、陛下は被災者の方たちを励ますために自ら尽力なさいました。フランスにおいては国民の連帯の運動が自然発生的に生まれました。

日本は、これだけの大災害に、国民一体となり、尊厳と勇気を持って乗り越えることができましたが、そのようなことができる国は滅多にないと思われます。日本人の美質のおかげで日本は被災地の再建に模範的な成功をおさめています。フランスは日本の再建の努力に寄り添っていきたいと思います。

陛下、

1994年の陛下のフランスご訪問が示しますように、陛下は仏日両国の関係の発展になみなみならぬ貢献をしてくださったことに感謝いたします。陛下をご家族と共に我が国にお迎えすることは大きな喜びであります。

それをお待ちしながら、日本国天皇陛下と皇后陛下のために乾杯の音頭を取らせていただきます。

日本国民の繁栄と幸福を祈ります。